

平成23・24年度プロジェクト研究

児童生徒のコミュニケーション能力の 育成に関する研究

研究報告書

北海道立教育研究所

活用ガイド

児童生徒に育みたいコミュニケーション能力について

- Q コミュニケーション能力の育成が求められる背景は何ですか。 2P
- Q 発達の段階に応じた具体的なコミュニケーション能力を教えてください。 9P

コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する校内研修について

- Q コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する校内研修に活用できる資料はありますか。 10P
- Q コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する校内研修について、どのように取り組めばよいですか。 46P

児童生徒のコミュニケーション能力を育成する指導について

- Q コミュニケーション能力を育成する指導に活用できる資料はありますか。 20P
- Q 小学校では、どのように取り組めばよいですか。 52P
- Q 中学校では、どのように取り組めばよいですか。 55P
- Q 高等学校では、どのように取り組めばよいですか。 61P
- Q コミュニケーション能力を育成する指導のポイントは何ですか。 66P

発刊に当たって

近年の児童生徒は、気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーションをとる傾向が見られ、興味や関心、世代の違いを超えてコミュニケーションをとることを苦手と感じ、相互に理解する能力が低下していると指摘されています。また、コミュニケーションをとっているつもりが、実際には相手の話を聞かずに自分の思いを一方向的に伝えているに過ぎない場合、または同意や反対の意思を伝えるだけで対話になっていない場合が多いなどの指摘もあります。

今回改訂になった学習指導要領においては、言語活動が重視されており、各教科等の目標を実現するため、言語活動を充実した学習活動の推進が求められているところです。言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるだけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあることを踏まえ、言語活動を充実することにより、コミュニケーションに関する能力や感性を育んだり、情緒を養ったりすることも期待されています。

また、児童生徒の問題行動等については、いじめや不登校で悩む児童生徒が多く存在するなど、依然として深刻な状況にあることから、児童生徒が、自分の思いや考えを適切に表現したり、思いやりの心をもって他者と関わったりするなど、未然防止の取組の充実を図る必要があります。

このことを踏まえ、当研究所においては、日々の授業等における児童生徒のコミュニケーション能力を育成する指導の充実を図ることが重要であると考え、「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に関する研究」を進めてまいりました。

本研究の成果が、各学校における実践や校内研修で積極的に活用され、児童生徒のコミュニケーション能力を育成する指導の一助となることを期待しています。

平成25年3月

北海道立教育研究所長 酒 向 憲 司

目 次

活用ガイド

I はじめに

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1 研究の経緯 | 2 P |
| 2 コミュニケーション能力の育成に関するQ&A | 4 P |

II 児童生徒のコミュニケーション能力の育成

- | | |
|---------------------------------|------|
| 1 身に付けさせたいコミュニケーション能力の分析 | 8 P |
| ・コミュニケーション能力を構成する5つの力 | |
| ・発達の段階を踏まえた児童生徒の具体の姿 | |
| 2 コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する校内研修 | 10 P |
| ・構成的グループエンカウンター | |
| ・ピア・サポート | |
| ・アサーショントレーニング | |
| 3 コミュニケーション能力を育成する指導の工夫 | 20 P |
| ・小学校における実践例 | |
| ・中学校における実践例 | |
| ・高等学校における実践例 | |

III 児童生徒のコミュニケーション能力を育成する取組の実践

～研究協力校の実践から～

- | | |
|------------------------------------|------|
| 1 コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する校内研修の実際 | 46 P |
| 2 コミュニケーション能力を育成する指導の実際 | 52 P |

IV まとめ

- | | |
|---------|------|
| 1 研究の成果 | 64 P |
| 2 今後の課題 | 66 P |

参考文献等